

# Smile 通信

平成19年1月 編集・発行／埼玉県住まいづくり協議会  
〒330-8516 さいたま市浦和区仲町3-12-10(埼玉県住宅供給公社内)  
TEL 048-830-0033 ホームページアドレス <http://www.sahn.jp>

## Contents

新年のあいさつ 上田埼玉県知事	2
国土交通省大臣表彰 埼玉県知事感謝状	3
シリーズ埼玉の住まい 4	
足袋のまち 行田	4
設立10周年記念	
住宅月間シンポジウム	6
埼玉県知事講演	6
ピーター・フランクル氏講演	10
リフォーム推進委員会から	13
防犯アドバイザー制度普及活動	13
住宅金融公庫からのお知らせ	13
第2回 埼玉住み心地の良いまち大賞	14
シンボルマーク、ロゴタイプ募集	16
防犯アドバイザー養成講習会	16

vol.26

# 「ゆとりとチャンスの埼玉」実現に向けて 約700万県民パワーの結集をく

埼玉県知事 上田清司



幅に予算を伸ばしています。昨年、障害者自立支援法に基づく新たなサービス体系に移行した障害者施設に対し、県独自の助成制度を設けました。今後も一層の充実を図つてまいります。

さて、県では、平成十九年度からの新たな五ヵ年計画「ゆとりとチャンスの埼玉プラン」を取りまとめました。

計画のポイントは、県民の潜在的なパワーを結集させるとともにあらゆる人にチャンスをつくり出すことです。今年三月から、高校生向けの奨学金を日本一の水準に拡大することとしました。こうした取組により「いつでも、どこでも、誰でも、何度も」挑戦のできる社会を目指します。

私は、七百万県民の皆様のパワーを結集して「ゆとりとチャンスの埼玉」の実現を目指す決意です。今後も、埼玉県住まいづくり協議会の皆様のお力を添えをお願い申し上げます。

結びに、この一年が幸多き年となりますようお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

また、私は昨年、県内経済団体トップの方々と「埼玉県子育て応援共同宣言」を行いました。社会全体で子育てを応援する「子育てムーブメント」を起こしたいと思います。障害者をはじめとする福祉事業も大

# 県民と行政と住宅供給者の架け橋に

埼玉県住まいづくり協議会  
会長 宮沢 俊哉



新年明けましておめでとうございます。

埼玉県住まいづくり協議会は、昨年、設立十周年の節目を迎えました。「雨だれ石をも穿つ」という諺もあります

ように、一事を継続していくことが大きな力になります。当協議会も、十年間の地道な活動が認められ、昨年は、国土交通大臣表彰をいたぐることができました。また、埼玉県の上田知事からは十月二十三日の住宅月間シンポジウムで感謝状を頂戴するとともにご講演もいただきました。これもひとえに会員の皆様、また、多くの関係者皆様のおかげであります。改めて感謝申し上げます。

当協議会の活動の中では、リフォー

ム事業者登録制度が、スタートから一年を超え、二百社以上が登録する制度に育ちました。新聞等でも話題として取り上げられましたが、最近では、他県でも当協議会の制度に倣った制度を作っているところが出てきており、平成十六年にスタートし各方面で高い評価を得ている住まいの防犯アドバイザーの制度と共に、当協議会の社会貢献の大きな柱になつているということができま

す。

今年は、昨年施行された住生活基本法に基づき、埼玉県でも県の住生活基本計画が定められることになります。これから豊かな住生活の実現は民間の力を活用して行つていこうというのが住生活基本法の基本理念でもあります。また、民間の力を結集して地域プランを築いていくことは上田知事のご方針であります。当協議会は、

県民と行政と住宅供給者の架け橋になるものと考えております。本年も協議会の活動にご協力を賜り、それぞれに情報を発信していくという、たいへん大切な役割を担う年に

# 国土交通大臣表彰を受ける

## 住宅月間中央イベント

十月に行なわれた住宅月間の中央イベントで、埼玉県住まいづくり協議会は国土交通大臣表彰をいただきました。

これは多年にわたる地域の住環境への貢献が評価されたもので、毎年のシンポジウムの開催や講習会、街づくりに関するコンクールの主催や防犯アドバイザーやリフォーム事業者の登録制度を独自に運営するなどの活動を評価していただきました。表彰式は今年度の中央イベント開催地である静岡県で十月五日に高円宮妃殿下のご来臨を得て、住宅関連団体の代表が集うなか表

彰式が行なわれ、協議会を代表して宮沢会長が表彰状をいただいてまいりました。

他の表彰対象者は地方自治体が中心で社団法人を除けば当協議会のような民間団体の受賞はなく、活動内容と組織のユニークさを物語っているようです。今年度の大蔵表彰対象団体は全国で十一団体という狭き門であります。当協議会のような地道な活動にもスポットをあてていただけたことに感謝するとともに、この十年間は表彰に値する活動であつたと会員皆様には誇りを持つていただきたいと思います。



表彰状を受け取る宮沢会長

## 県知事から感謝状

続けて十月二十三日に行なわれた協議会主催のシンポジウムでは上田清司埼玉県知事より感謝状の贈呈があり、小さな歩みではございましたが、十年間継続したことがこうして目に見える形で評価されたことは、今後の活動に大きな弾みをつけてくれると思います。

会の冒頭で授与式が行なわれました。小さな歩みではございましたが、十年間継続したことがこうして目に見える形で評価されたことは、今後の活動に大きな弾みをつけてくれると思います。



上田知事から宮沢会長へ感謝状の贈呈

## 協議会から笠原、高野両氏へ感謝状

さらに、同日、設立以来会の中枢メンバーとして、活躍してこられた、笠原高治、高野政次の両氏へ、会長から感謝状が贈られました。

- ・受賞の言葉
- 多くの皆様に支えられて

笠原 高治

功労表彰を頂き、身に余る光榮です。

振り返りますと設立の準備段階から活躍された方々、運営委員長時代には各部会や専門委員長を引き受け頑張つて



宮沢会長から笠原相談役へ感謝状

宮沢会長から高野運営副委員長へ感謝状

いただいた方々、品確法普及委員長を任せられたときには県内各地でその説明会を主催して頂いた団体会員の幹部の皆さんにも感動したものでした。そうした多くの皆様に支えられて継続し、社会に貢献していけるという視点を片時も忘れてはならないと思います。とは申せこの度はありがとうございました。

感謝を込めて

高野 政次

私は、今まで埼玉県住まいづくり協議会のような組織の運営・活動については、全く知りませんでした。十年間運営副委員長という立場で活動することができますのも、偏に皆様方のご協力の賜物です。とても感謝すると同時に、光栄に思っております。

# 足袋のまち 行田

埼玉県立近代美術館 学芸主幹 伊豆井秀一

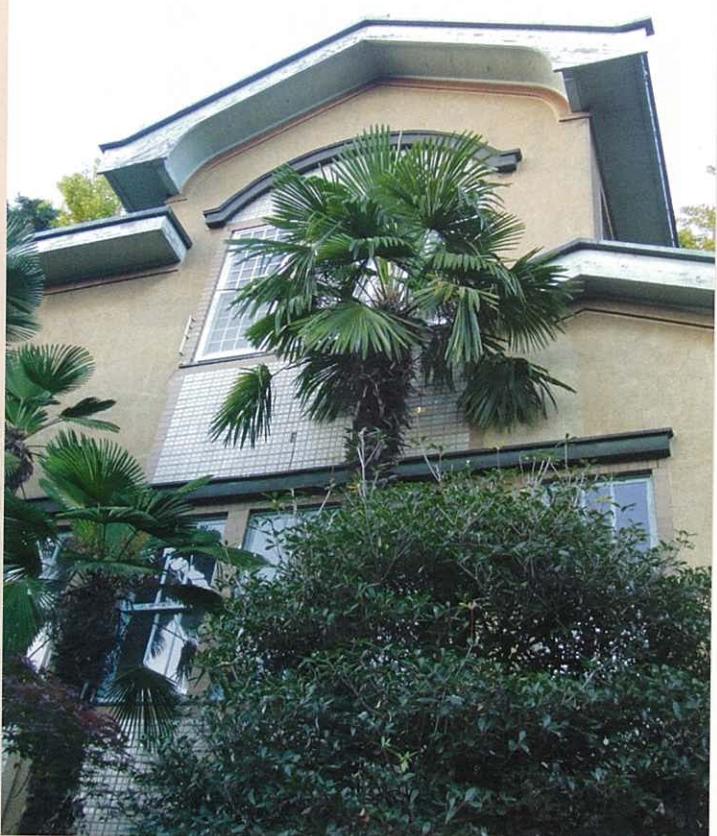
表紙は 彩々亭 外観



彩々亭 玄関階段



彩々亭 窓辺の鉄格子



彩々亭 三階建て洋館

県内の建築をたずねていくと、地元の産業に結びついた建物に面白いものが見られる。こうした建物は今後もまちづくりに大きく寄与していくはずである。

さて、今回は行田を取りあげる。鉄剣で名を馳せ、城下町としても栄え、一時は県庁も置かれたこともあるこのまちには、その歴史を伝える史跡も多くのこされている。

しかしながら、いっても行田といえば足袋である。一時は全国の八十パーセントを生産していたという市内には、それらの商品倉庫、足袋蔵が数多く建てられたのである。現在、残されたこれらの中を活用しようと地元の商工会議所、NPOの人たちが中心となつて、まちづくりが推進されている。ここではそれらも含めて紹介していく。

JR吹上駅から産業道路が行田市内へまっすぐ通じている。まずは、佐間の交差点を新町通りに入つた三叉路近くにある「彩々亭」(昭和元、七、十一年)。はじめて見たのは夜だった。ライトアップされた洋館が闇に美しく浮かび上がり、こんな豪壮な建物が当地にあつたのかと驚いた記憶がある。もとは足袋工場荒井八郎商店の事務所兼邸宅で、改装されて現在は料理店となる。『足袋御殿』の名にふさわしく、向かって右に住まいであつたベランダ付きの瀟洒な木造二階建て洋館。窓辺のモダンな鉄脚りが美しい事

務室を挟み、中央に四部屋から成る和室。にぎやかな宴が繰り広げられたと云う座敷の一部屋には造りつけの金庫がいかめしくしつらえてある。腰を下ろすと、わざわざ富士山から運ばれたという溶岩を石組みに用いた美しい庭園がのぞめる。庭に出て見上げると奥には木造三階建ての洋館がすつと建つ。遠方から訪れた商談の客のゲストハウスだったという。手すりにシンプルなデザインの施された三階まで連なる急な階段も楽しい。一部改裝されているものの、これらの建物は竣工当時の華麗さを十分にたたえている。昭和天皇も来臨され、行田の迎賓館的役割を果たしていたのである。三叉路の交差点をさらに秩父鉄道の行田市駅方向に進んでいくと、左手に初代行田市長の奥貫邸がある。現在は「Café 閑居」(昭和初期頃)。居宅は昭和初期の和洋折衷住宅。応接室、そして光の燐々と入る居間に二階建ての和風住宅が隣接し、広い庭とともに閑静なたたずまいを示している。ここではこの居宅の奥にある「クチキ建築設計事務所」「足袋蔵ギャラリー」「門」(大正五年)についてもふれておきた。市内各地には現在でも三百を超える足袋蔵が残されており、独特の景観を形成しているが、なかでもこの奥貫家の足袋蔵は見逃せない。もとは市内では唯一黒壁の三階建てで、しばらく使われず老朽化しつつあった。それを地元のクチキ建築設計事務所が借用、改装して事務所に転用。重厚な蔵の持つ空間を活かし、となりの「足袋蔵ギャラリー」が美しい事

ラリー「門」とともに見事に再生させ、蔵再生の見本ともいべき建物となつている。

外に出ると通りを挟んで田山花袋の『田舎教師』に「行田印刷所」として登場する「今津蔵」(嘉永年間)が見える。店舗部分から縦一列に部屋が並ぶ構造は他の店蔵とともに行田の店蔵の特徴でもあるが、市街地唯一の江戸時代の店蔵としても貴重である。

「今津蔵」の脇の細い道を進むと行田の金融と足袋産業の歴史を語る貴重な歴史的建物で、もと忍町信用組合の店舗「新町自治会館」(大正十三年頃)が左手に。

懐かしさを覚える長屋をはさんだその先には間口、奥行きともに四・五間の木造二階建ての洋館「長井写真館」(大正後期)。木造下見板張り、一部モルタル張りで大正後期のモダンな雰囲気を伝える。一階が住宅、二階がスタジオ。路地を奥に回るとスタジオの明かり窓が大きくとられた急勾配の屋根に眼を魅きつけられる。戦前の写真館を伝える建物としても貴重である。

足袋蔵再生のもうひとつモダルケークスが秩父鉄道行田市駅近く、蓮華寺通りに面した「旧小川忠次郎商店店蔵」(大正十四年、昭和四年頃)。店舗は切妻屋根、土蔵造り。主屋は寄せ棟造り木造二階建て。一階は造り付けの金庫を手前に店舗の土間から奥の主屋につながる構造で、二階は格式を備えた座敷となつていて。昭和五十年代以降使われていたが、商工会議所の尽力により整備

され、現在、は・うどん店として観光客の人気を集めている。なお、この建物は、行田市の目抜き通りに位置し市街地のランドマークとなつていて、「武藏野銀行行田支店」(昭和九年)とともに国の登録有形文化財となつていている。

このように足袋なくしては行田を語ることができないが、他にも荒川、利根川の水の利を活かして生まれた酒蔵、御三階櫓が美しくそびえる忍城跡、古代蓮、そして古代のロマンをよみがえらせる古墳など、今後のまちづくり、まちおこしには充分すぎるほど文化資源がこのまちには備わっている。

行田市がこれらをうまくかみあわせて今後どう展開をはかつていくのか、注目していきたい。



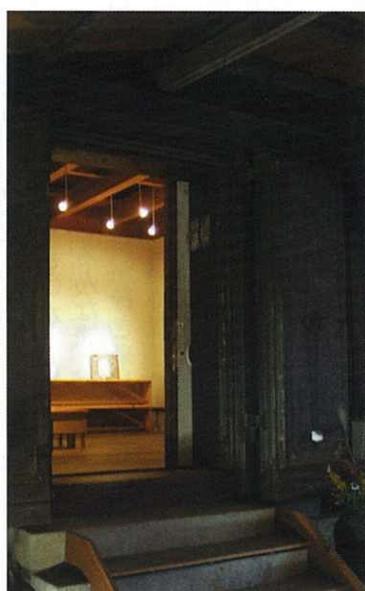
旧小川忠次郎商店店蔵



クチキ建築設計事務所



長井写真館



足袋藏ギャラリー「門」



武藏野銀行行田支店

埼玉県住まいづくり協議会  
設立10周年記念  
平成18年度 住宅月間シンポジウム

# ゆめ 埼玉の未来を見つめて



去る十月二十三日、さいたま市浦和区の浦和ロイヤルパインズホテルで、協議会設立十周年記念住宅月間シンポジウムが「埼玉の未来を見つめて」と題されて開催されました。宮沢会長の「今年は、住生活基本法」という新しい法律も施行され、量だけの住宅供給から、質を重視した、二十年後、三十年後にも価値のある家づくりへの転換が国の政策としても明確に打ち出された年でもあります。埼玉県住まいづくり協議会は、県民の皆様とともに、本当に住み良い住まい、住み良い街をつくつていくために、これからも努力を重ねて参ります。そして、美しいふるさと埼玉から、あるべき家づくり、まちづくりの形を、美しい日本へと発信できれば、と思います。」との挨拶や国土交通省大臣表彰の受賞報告に続いて、上田埼玉県知事から「さたいまのグランドデザイン」、ピーターフランクル氏から「数学者が語る住宅リフォーム」と題された講演が行われました。以下にその概要を掲載します。

さて、人口減少・高齢化社会という時代の到来を迎えて、どちらかというと慌てふためき、不安におののきという状態が、何となく新聞の紙面を飾る。そういうことが強く打ち出されてくるわけがありますが、確かに量が縮小するということは、もうけ全体が縮小する気になるところであります。社会全体の中でそうした潮流をどう見るか、歴史という大きな流れの中でどう見るかということについては、余り新聞の紙面が出てまいりません。

明治以降、人口が三千万から一億二千八百万までふえた。それ以前はどうだつたんだろうと。実は、ちょうど五代將軍綱吉が誕生したころから、江戸時代の人口は停止いたしまして、それまでふえました。室町の終わりから、しその後どちらかといえば人口が減つた時代がありまし

じや江戸時代は

本日は、埼玉県住まいづくり協議会の十周年を記念する会で講演をさせていただく機会をいただきまして、まさにありがとうございます。宮沢会長並びにまた故中内前会長を初めとする会員の皆様方には、住まいづくりのみならず県政全般にわたりまして、日々ろからさまざまご支援とご協力をいたいでいますことを、心からお礼を申し上げます。

さて、人口減少・高齢化社会という時代の到来を迎えて、どちらかといふては、もうけ全体が縮小する気になるところであります。社会全体の中でそうした潮流をどう見るか、歴史という大きな流れの中でどう見るかということについては、余り新聞の紙面が出てまいりません。

停滯した時代だったかどうか。ご承知のとおり五街道が発達して、東海道五十三次の広重の絵があります。あるいはお伊勢参り、あるいはまたお遍路参り、秩父巡礼もありました。人々は結構いなせな格好をしたり、ご隠居さん風の、まさに水戸黄門のご隠居さんですが、いろんな旅人が往来をして、日本中の物産が行き来して、それはそれなりにすごい時代だった。とりわけだれもかれも先生をしていた。お花の先生、書道の先生、お茶の先生、川柳の先生、ありとあらゆるさまざまな流儀、これは剣術もそうであります。が、いろんな流派が町道場を開き、武士だけだと門弟の数がどうしても、数が知れています。から、町人、農民に至るまで武術を習う。すごい水準で江戸時代広がったわけであります。何をしていたのかと。時間余り、人余り現象を、さまざまなかつて文化だとか、もう最大限に意匠を凝らすというんでしようか。つまり、単に家を建てるだけじゃない、単に寺社をつくるだけじゃなくて、最大の文化にしていく過程、まさに時間余り、人余りというのはそういうことなのかなといふふうに思つております。

**埼玉県知事 上田 清司**

**新五か年計画**

埼玉県は、来年度から新しい五か年計画をつくることになります。今

までと何が違うか。今までには一定の予算の中で、実はどこかのエリアに何をつくります、何をつくります、どちらか

といふと均等配分方式というんでしようか、そういう構想を各地域に見せて、ちゃんと埼玉県としては各市町村、各エリア公平に面倒を見ていていますよとう、そういう計画を提案しております

た。今度は違います。歴史的な大きな流れの中、人は何をすべきかという、少し生意気なんですが、大きなテーマで五か年をのぞこうというふうにしていま

ります。

幾つか後でご説明したいと思いますが、今申し上げました時間余り、人余り、こういう時代が出てくるんだと。そういう中で何をするんだと。ITを使った新しい江戸時代が始まるかもしない。江戸時代も地方分権の時代です。それの藩がいろんな産業を興し、いろんな学問をし、それぞれが特色のある地域をつくっていたんです。明治以降殖産興業という名のもとに、取り急ぎ繊維工業からスタートして、徐々に機械工業になり、重化学工業になり、ハイテクになりという形で、工業生産に必要なさまざまな教育システムや集団のシステムをつくってきたんですが、これからはちょっと違うねと。どうも国に合わせていろいろなことをやっていくと、手違いが多くなっているな。地域によつて違うじやん。住宅だつてそういう雪の多いところとないところ、全国均一で本当に企画を立てていいのかという、そういう反省になつてきました。

## ゆとりとチーズ

埼玉にいろんな欠陥が出てまいりました。その欠陥を正しながら、新しい時代にあるべき姿というのを見出そうというのが、埼玉の新しい新五か年計画なんです。それは、「ゆとりとチャンス」というのをテーマにしていますが、このゆとりというのは空間のゆとりもあります。

一、三日前に、石原都知事と松沢神奈川県知事と三人で、恵比寿のガーデンプレイスで食事をしました。近辺の幾つかのタワーを見ると、東京都には、法人税がたくさん入つてうらやましいなんて思いを持ちました。でも、さいたま新都心に来て、裏側に見沼の田んぼを見ます。これは豊島区と同じ広さです。どうだ、東京にはこんなに広い田んぼがないだろう、という思いを持つて自信がわいてまいります。

縁も欲しい、でも赤ちようちゃんも欲しいなんて言って、だれもかれもそういう調子のいい部分持つていますが、私は両方が可能じゃないかなと思っています。東京には赤ちようちゃんやスナックがたくさんあるでしょう。でも、緑の空間はありません。埼玉は、緑の空間もあります。要するに、百人犯罪を起こせば九十人近く逃げているという状態なんですね。こういう異常な状態ですから、ますますそういう状態の中では犯罪が多くなるんです。だから、私は犯罪を減らさないとダメだと。犯罪を減らして検挙率を上げないと、犯罪がふえるんだと。考えてください。例えば警察のパトロール車が、あのパトカーが仮に埼玉の中央区をパトロールしているとします。もし西区で犯罪が起きたとすると、そちらの方に走っちゃいますから、パトロールしないから抑止力がない、抑止力がないから犯罪が起きる、犯罪が起きるからますます検挙率が上がらない、検挙率が低いから安心して犯罪ができるという、どんどん悪循環になつていき

ます。だから、犯罪が少なくなったから

警察官のパトロールが多くなる、警察官のパトロールが多くなるから犯罪が少なくなる、犯罪が少ないからびしひし検挙できる、びしひし検挙されるから犯罪は嫌だと、こういういい循環をつくらなくちゃいけないということです

## 犯罪検挙率最下位県

そこで、どんな欠陥を今克服しているのかという、これまでの取り組みの成果について少しお話をしたいと思います。

先ほどアメリカの事例を出しました。

非常に犯罪が多い。実は、平成十四年度に埼玉県は検挙率で四十七位になりました。四十七位というのは、四十七都道府県ですから最下位です。検挙率十二、八%。実は、昭和六十年には六十八、二%だったのです。七十%近い検挙率が、十%ぐらいになつちゃったというんです。要するに、百人犯罪を起こせば九十人近く逃げているという状態なんですね。こういう異常な状態ですから、ますますそういう状態の中では犯罪が多くなるんです。だから、私は犯罪を減らさないとダメだと。犯罪を減らして検挙率を上げないと、犯罪がふえるんだと。考えてください。例えば警察のパトロール車が、あのパトカーが仮に埼玉の中央区をパトロールしているとします。もし西区で犯罪が起きたとすると、そちらの方に走っちゃいますから、パトロールしないから抑止力がない、抑止力がないから犯罪が起きる、犯罪が起きるからますます検挙率が上がらない、検挙率が低いから安心して犯罪ができるという、どんどん悪循環になつていき

## 警官の増員と民間パトロール組織

警察官の増員は知事が決めるんじやないんです。総務省です。三千人増やそうといつたときに、三千を四十七都道府県に割つて、いろんなことを判断するんです。去年まで、警察官の数が、人口比に対してワーストワンでした。やつと今年になつて下から6番目になります。警察官の数が人口比に対しても

警察官は、今増えてきております。毎年三百人とか三百三十人とかですが、それでも日本一増えているんですけども、七百万県民の中でも三百人警察官が増え、急に成果が上がるわけがないと私は思っています。

そこで、民間パトロールを組織する運動を開いたしました。このほど新聞に出ていました。実は、十八年の六月ぐらいの段階で、もう東京都を抜いて一位になつています。

私は、十五年の九月に知事に就任しまして、十六年の二月の予算編成の頃、市町村にジャンパーだとか帽子だとか、あるいは懐中電灯だとか、そういうのを補助金を出して、各市町村にお願いして民間パトロールふやそと取り組みました。その時に見た数字が三百六十でした。十六年の四月に五百十五団体だったんですが、現在三千二百六十

団体、一千九百の段階ぐらいで東京都を抜きました。これは、地域社会のことです。住まいづくり協議会だつてそうです。水平的、共生共栄、協力関係をつくっていくという、地域社会で自分たちのまちは自分たちで守ろうという運動です。これだけじゃありません。新販売店、ヤクルトさんあるいはガスの検針、電気の検針、とにかく各家を訪問するのが仕事だという二十一業種の皆さんと防犯協定を結んで、そしていろんな通報をしてもらうようになっています。

そして、「安心・安全のまちづくり」というステッカーを、十万五千台の車両に張つていただいています。タクシーカーがあると思います。あるいは、トラック協会の皆さんにも協力していただいている。

か。我々はそれができるということを証明したじゃないですか。これからは民の力だと。文字どおり民の力を結集しようじゃないかと。そういうことを今回の新五か年計画「ゆとりとチャンス」の社会で、それをやろうとしているんです。一生懸命ですね、とにかく県民の力を結集しよう、それが戦略の一番だと。今まで使つていなかつたところがないのかと。女性、参加率悪いですね。女性を使え、高齢者を使え、ありとあらゆるもの全部使つちやえ、すごいんですけど。百万人江戸に住んでいたというんですが、正式な警察官は百六十人しかいないんです。南北奉行所月番交代、正式な与力と同心というのは八十人づつで百六十人しかいない。おまけに裁判官まで兼ねていた。じや錢形平次は何だと。錢形平次は、あれ民間委託事業者なんですよ。そういう人たちをたくさん使つていた。消防署もなかつた。でも町火消しがあつた、大名火消しがあつた。官がかわる世界を小さくしていった。これがポイントでしよう。福祉や教育にお金がかかる。高齢者が多くなればなるほど医療にお金がかかります。高齢者がピンцинになるには、そういう人たちが大きく動く世界をつくるしかないということで、熟年、若者、女性パワーをどんどん出していこうと思います。

### NPO法人の活用

知事に就任したときには、四十七都道府県でNPOの団体数が十位だったんです。いろんな手を打ちました。NPO基金をつくったりNPOプラザをつくつたりして啓発活動をいろいろやつ

たら、現在「」でもうすぐ六位になります、兵庫県を抜いて。多分今年中に抜くか、来年早々に抜くと思います、流れからして。NPOの伸び率は埼玉県が都市圏では一位です。

例えばAという企業の社長がたまたま川をきれいにする運動をやつて、NPOのメンバーだとすると、その会社が利益から百万円、川をきれいにする運動のNPOに寄附すれば、ちゃんと損益で落とせるようになります。指名ができるようにしました、埼玉県の基金に。ただ、直接寄附されると、寄附は有効ですけども、損金から落ちませんから、埼玉県のNPO基金に一旦入れていただいて、あそこに出してくれと言えばそのとおりにします。だから、実質的に指定ができますから、ぜひこれは活用してください。自分がいろんな活動をなされているNPO団体に、自分の個人の所得でもいい、会社でもいい、どうぞそれを活用してください。どんどんNPO団体で有益な活動をしていく、それから有力なメンバーを集めている人たちはどんどん資金量が増えます。資金量がふえるからまた有力な活動ができる、有力な活動をするからまた資金量がふえるといういい循環ができます。そういうものをどんどん打ち出そうとしています。これが、逆に言うと民の力を結集するマンパワーで勝負しようということあります。

とにかく地域の魅力をつくりましょ

うと。何かこう、過疎だとか何かといつ

たら地域に魅力がないみたいですね。

そう思われるんですけど、そういういま

せん。秩父なんかに行くとすごいです

ね。この間横瀬というところの小学校

に行つてきましたら、不登校ゼロ、遅刻

ゼロ、欠席ゼロ、全額康。何でだと、地域がしつかりしているから。比較的家族の形態が、世代間がつながっているからだ。だから落ちついた子供たちが学校に来ているから、先生たちは楽だと思いますから、これからもぜひ協議していけばいいのです。

### 地域ブランドの創出

秩父の小鹿野は、わずかな人口しかないけれども、町民の七人に一人は小鹿野歌舞伎をやつているというすごい世界です。赤ちゃんも含めて、七人に一人は歌舞伎にかかわっているというんですから、すごい世界です。すごい地域ブランドになつています。そういうものを、どんどんやつていけば、人口減少も、高齢化も怖くない、だって戦力にならんですから全部。そういうことを新

五か年計画の中で、「ゆとりとチャンス」というのをキーテーマにしています。ゆとりは精神的なもの、空間的なもの、両方ありますよと。チャンスはどんどん拡大しますよと。できるだけいろんなチャンスを妨げるようなことをやめましょうという、そういう世界をできるだけ演出する、そういう行政にします。収納がテーマになつたり、防犯がテー

マになつたり、いろんな時代時代のテーマがあるというふうに思います。まさに住まいこそ、その時代時代の一番のニーズにこたえる。そういう商品じやないかなというふうに私は思います。

### 時代時代のテーマ

住まいづくり協議会の皆様に参考になるようなことが余りなかつたかもしれません。住宅そのものも、その時々でテーマが変わつてくると聞いておりま

す。収納がテーマになつたり、防犯がテー

展開していただければありがたいなと

いうことを心からお願い申し上げまし

て、お話をかえさせていただきます。ありがとうございました。

# 数学者が語る住宅リフォーム

## ピーター・フランクル

### 「日本は狭い国」ではない

僕は、ハンガリーという国に生まれました。そして、ハンガリーは大体こんな形をしています。そうといっても、僕が講演するたんびにハンガリーの形が変わります。二度と同じ絵はかけませんからね。日本人によく「ハンガリーツてどんな国」と聞かれます。一言で言えばちっぽけな国なんです。日本人は好んで、「日本は狭い国だ」と言っていますが、それはやはり自分の国をいつも、あんな莫大な面積を持つたロシアとか中国とか、そして何よりもアメリカと比べるからなんです。確かにアメリカに比べると、日本の国土はかなり狭いです。でも、ちょっと視点を変えれば、ヨーロッパだけでも五十五カ国あるんです。そのほとんどは、日本より面積が小さいのです。例えばイギリス、百年前はまだ世界一の大國であつたイギリス、イギリスの面積は、日本の三分の二しかない。それとドイツ、統一後のドイツ、これはヨーロッパで今経済的に最も強い国なんです。ドイツの面積もわざかながら日本より小さいのです。ハンガリーになりますと、日本の四分の一、九万三千平方キロメートル、そして人口は千万人で東京よりも少ない。そんなちっぽけな国がハンガ

リーです。

ハンガリー語は英語に似ているとは言えないですね。強いて言えば、日本語の方が似ています。実は、日本語とハンガリー語は、意味も発音も全く同じ単語二つほどあります。一つはこれです、「水」、早速いただきます。（水を飲む）おいしい、それはハンガリーだけれども、これ以外にもいろいろ同音異義語もあるし、いろいろ似ているところがある。だから、世界の言語学者は世界にたくさんある言語を大きく分けるときには、たつた五つの語族に分けるんです。ちなみにヨーロッパのほとんどの言語は、インド・ヨーロピアン言語になつてしまふんです。かけ離れたロシア語と英語、聞いたら全然似ていないので、同じ語族なんです。実は、ハンガリー語と日本語も同じウラル・アルタイ語族、その周辺に入ってしまうんです。

ピーター・フランクルというと、それはあくまでも英語の順番なんです。ハンガリー語だと、皆さんと同じ順番になります。僕の名前は、身分証明書にもそう書いてあつたし、新聞、雑誌、テレビなど紹介されると、必ず今で

も「フランクル・ピーター」となっています。しかもハンガリー人は、日本は同じであることをよくわかっているんですよ。日本語のことをもちろん知らないし、でも日本語でも同じ順番であることわかつてゐるから、ハンガリーの新聞に日本の総理大臣、そう名前が書いてあると、やっぱり「安倍晋三」となっています。ロシア、イギリス、アメリカ、フランスなどでは、全部「晋三安倍」と逆になつてゐるんです。でも、ハンガリーでは同じ順番で書いて、それでもハンガリー人は最初には名字、後は名前、日本人だからと、よくわかつてゐるんです。

意外と混んでいます。週末まで東京に出たり、原宿に行つたり渋谷に行つたり新宿に行つたりするんです。やっぱりこれを変えないと、県の未来は明るくならないです。その埼玉に帰りたくなる、しかも週末を埼玉に過ごしたくなる、そういうような県づくり、またづくり、それは本当にねらうべきものだと思っています。

### 人が帰りたくなる埼玉県

知事の話でも、いろいろ話してくれたんですけど、もう一つぜひ言ってほしかったのは、どんな埼玉県を目指しているのかということには、僕は人が帰りたくなる埼玉県を目指すべきだと思います。つまり自分は、東京で仕事する人はこれからも多いだろうと。何しろ統計の上にも出たように、大企業はこの県の中には少ないです、だから混んでいる電車へ乗つて、埼京線やら京浜東北線やら、また自分の車でもいいんですけれども、とにかく都心まで出て、そしてそこで働いているんです。そして多くの人はそれでも、夜も会社の同僚などとか、デートやら映画館に行くやら、いろんなものでやつぱり都心に残るんですよ。僕はよく埼

### 新築よりもリフォーム

新築よりもリフォームの方がずっと今の日本に合つてゐるんです。ヨーロッパはやっぱり、ずっとそのとおりなんです。ヨーロッパの大きな町に行くと、大企業はその町の中心部には新しい建物は余り建てないですよ。もし建てたとしても、昔の建物の壁を何か保ちながら建てるんですよ。だから、何をきれいにして、当然中をいろいろなものは便利にする必要があるし、水道管などとか、いろいろ変えなければならぬし、でも外ができるだけ変えなくて、その町の風景を、その町の外観をきちんと保とうとするんです。町の外には、郊外とか、そういうところにはもちろん団地とか高いビルとか、いろいろ建

京線に乗つたりすることもあれば、京浜東北線にも乗つたりすることがあるんですね。それで、午後五時、六時ごろに乗つていると、まだ余り混んでいないですよ。日本語のことをもちろん知らないし、でも日本語でも同じ順番で乗ることをわかっているから、ハンガリーに乗つてみると、まだ余り混んでいないですよ。一番混んでいるのは、もう

限りその町の中には、そういうようなものをしていないよう正在いるんです。そして、人たちも古い家に住んでいて、でも自分はできるだけいい暮らしをしたいです。いい暮らしをするために、やつぱり時には壁を移したりとか、いろいろ補強工事をやつたりとか、新しいおふろを入れたりとか、いろんなものをやるんです。いろいろ工夫をするんです。だから、実はヨーロッパの人の家に行くと、とってもおもしろいです。日本のマンションに行くと、余りおもしろくないです。大体同じように見えるんですよ。でも、ヨーロッパのうちに行くと、すごくおもしろいですよ。やつぱりどの人のうちに住つても、その人の感覚がすぐわかるんですよ。全然違う。自分なりにそれを変えて、いい暮らしをしたいんです。

それは、日本人にとって、ちょっとだけ自分の父の話をしたいです。何でかというと、僕の父はまさに地元には名医だったんです。地元というのは、ハンガリーの小さな人口五万人の町で、父はそこで本当に名医としてずっと活躍してきましたけれども、そして名医の条件は何なのかと皆さんに話したいです。だから、父が名医であつたのは、それは何かほかの人よりいい薬を持ったとか、手術がうまかったとか、そういう意味でもない。彼を見て僕がすごく感じたのは、その名医の条件は、人が好きだつたんですよ。人の話を一生懸命聞いたんですよ。道を歩いているときも、いつも「先生、先生」と声かけられて、決して嫌がることがなく、だれともそこでいろいろ話したりした。そして、興味があつたからその話をきちんと覚えたんですよ。だから、次に会つたりするときには、あの人はどういう病気を持ったのか、奥さんは仕事は何なのか、



えたんです。つまり、僕が思うには、今の時代こそは日本人にとつては大変換期であつて、過渡期であつて、このハードからソフトへと。だから、たくさん鉄筋コンクリートを打ち込んで、それで土木工事をたくさんやつて、そういうような時代よりも、そのある物をどうすればもっと使えるのか。どうやつてこれを通して自分の人生の質が高くなるのか。自分は幸せ感を得られるのか。そういうようなソフト、そのソフトな部分を大事にする、そういう時代にしなければならないと思っています。

そして、ちょっとだけ自分の父の話をしたいです。何でかというと、僕の父はまさに地元には名医だったんです。地元というのは、ハンガリーの小さな人口五万人の町で、父はそこで本当に名医としてずっと活躍してきましたけれども、そして名医の条件は何なのかと皆さんに話したいです。だから、父が名医であつたのは、それは何かほかの人よりいい薬を持ったとか、手術がうまかったとか、そういう意味でもない。彼を見て僕がすごく感じたのは、その名医の条件は、人が好きだつたんですよ。人の話を一生懸命聞いたんですよ。道を歩いているときも、いつも「先生、先生」と声かけられて、決して嫌がることがなく、だれともそこでいろいろ話したりした。そして、興味があつたからその話をきちんと覚えたんですよ。だから、次に会つたりするときには、あの人はどういう病気を持ったのか、奥さんは仕事は何なのか、

子供はどこの学校に通っているのかとか、そういうものを大体全部覚えていたんですよ。五年、十年たつてもかなり覚えていたんです。だから、彼は人の病気を治そうとするところには、ただその症状を見て対症療法をやろうとしたんじゃなくて、病気をその根から治そうとしたんですよ。だから、いろんな状況の中には一生懸命考えて、何でその病気が起こったのか、何が原因でそうなったのか。それはそれなりに、もちろん百戦連勝である、何でもできるわけではないけれども、でもかなりのパーセンテージでできました。

だから、そこでリフォーム業者の人がきようはたくさん来ているから、その人たちへのお願いでもあるんですけども、名リフォーム会社になるためには、一番の条件はリフォームする人たちの話をよく聞いて、よく考えることがあります。つまり、英語では立派な譯があります。ちょっと長いですが、それでも、「An Englishman's home is castle」、だから「イギリス人の家は彼のお城である」と。これを読んで、日本人で英語がよくわからない人だつたら、イギリス人はみんなお城に住んでいるとか、広い家に住んでいるとか、そういうふうに読み取るかもしれないけれども、そうじやない。イギリス人にとっては、自分の家は、もう自分のお城という気持ちは住んでいるんです。だから、これこそ私の最も大切なものである。これこそ私なりのものにしなければならないです。私がそこに住んでいるから、

### 人生の主人公は誰？

リフォームは、もう一つすばらしいことがあると僕は思っているんです。日本人はどうちらかというと、余り人生を考える暇がないですよ。人生の主人公はだれなのか。いろいろ長い歴史の時代がありまして、その戦争中の日本では間違いくみんなの主人公は天子様、天皇陛下だつたんですよ。そして、戦後の日本は憲法も変わつて戦争も終わつて、どちらかというと戦後日本で人生の主人公は、まあGDPまで言わなくとも、経済だつたんですよ。だから、日本の経済は何よりも大切だと。人生の主人公は、まあGDPまで言わなくて、どちらかといつて戦後日本で人生の主人公は、まあGDPまで言わなくて、経済だつたんですよ。だから、日本は外國から批判されるときには、よくエコノミックアニマルと言われました。経済しか考えていない生き物。日本人は外國から批判されるときには、でも、今の時代だと、もうGDPも余りふえないし、経済を主人公に置いたら損なんですよ。やっぱりこれから日本には、皆さんにぜひその自分の人生の主人公は自分であると、もつと認識してほしいです。意識してほしいです。

そして、そのもう一つ、せつかく

自分の家を自分にふさわしいものにしなければならない。自分の生き方、自分の考え方、自分のニーズに合つたものにならなければなりません。これは決してすごく広くしなければならないとか、すごく豪華なものを使つてすら必要があるとか、そういう意味ではありません。それは、その人の生き方に、その家族の一家団らんのためなどとか、いろんな活動のためとか、ぴつたりでありますようにしなければならないです。



と、どんな仕事をやるのかとか、それは最初から全然決めてなくて、トヨタ自動車に就職とかソニーに就職とか、その会社で決めているんですよ。そして、会社の都合で、じゃ営業を何年かやつたり、それから総務部へ何かいたりとか、経理をやらせたりとか、商品開発をやつたりとか、名古屋まで飛ばされたりとか、とにかくその会社の都合で自分は次の仕事とか、いる場所とか決まるんですよ。だから、自分の人生の設計士は会社であると。多くの会社では、伝統的には自分の奥さんまでその会社の中に見つけて、そして奥さんは寿退職をするという、そういうような設計になっていたんですよ。でも、今はその会社もかなりぐらついたというか、この会社社会はずっと続いていた、それで安心できる、自分はずっと定年まで働けるとか、そして年功序列で給料が上がるとか、そういうような時代国家だったんですよ。自分は、じや二十になって卒業旅行になんか海外に行こうとかなんか、そういうことはとても考えられない時代ですよ。もう十八、十九になつて赤紙が来て、自分は戦争に赴かなければならぬ。それとも女性でも、ただ産めよふやせよとどんどん、どんどん子供を産んで、それを国に忠実な人間に育てるという役割だけになつたんですよ。そして、戦後は大体普通の企業で働いている、特に男性のいわゆるサラリーマン、日本を支えてきたサラリーマンたち、彼らの人生の設計士は、まさに自分ではなく会社であつたんですよ。まず会社に就職する

やるいろんな活動が変わったり増えたりするんです。だからこそ、自分はその人生とともに、その家の内部もリフォームのことで設計しなければならないと思っています。

さてさて、僕は埼玉に今住んでいるんですけど、埼玉は確かに知事が言つたように、いろいろ大自然はまだ残っているんです。僕は結構最近も週に一回は、日曜日あたりは結構別所沼に行つたりして、そこにはたくさん的人が釣りをやつたりして、確かに東京ではそういうように普通のみんな出入りするお金も払わないところにいろいろ魚釣りをやつて、たくさん魚釣れるところは余りないです。夜も町を歩いたりして、やっぱり夜も別所沼は本当に好きだから、沼を何周かして、また家に歩いて帰つたりもします。でも、もつと県北に行くと、県知事は小川のことを話したけれども、その隣には嵐山がありまして、嵐山もやっぱり日本の国蝶、オオムラサキの里というところがあつて、僕もそこへ行つて、やっぱり初めて実際飛んでいるオオムラサキ、そのチョウウチヨウを見て、すごくきれいだつた。ヒバカリといいうちつちやな蛇も道を通つたりして、害のない蛇ですよ。至るところにマムシ注意と書いてありましたけれども、でもマムシも別に人をふだんは襲わないから、そんなに心配はなかつたんです。長瀬の方にも行つたり、川下りやつたりとか、猿がいる山に登つたりして、だから確かにたくさんすばらしいところがあると。だから、いろいろ考え方の転換に

あります。

さてさて、僕は埼玉に今住んでいるんですけど、埼玉は確かに知事が言つたように、いろいろ大自然はまだ残っているんです。僕は結構最近も週に一回は、日曜日あたりは結構別所沼に行つたりして、そこにはたくさん的人が釣りをやつたりして、確かに東京ではそういうように普通のみんな出入りするお金も払わないところにいろいろ魚釣りをやつて、たくさん魚釣れるところは余りないです。夜も町を歩いたりして、やっぱり夜も別所沼は本当に好きだから、沼を何周かして、また家に歩いて帰つたりもします。でも、もつと県北に行くと、県知事は小川のことを話したけれども、その隣には嵐山がありまして、嵐山もやっぱり日本の国蝶、オオムラサキの里というところがあつて、僕もそこへ行つて、やっぱり初めて実際飛んでいるオオムラサキ、そのチョウウチヨウを見て、すごくきれいだつた。ヒバカリといいうちつちやな蛇も道を通つたりして、害のない蛇ですよ。至るところにマムシ注意と書いてありましたけれども、でもマムシも別に人をふだんは襲わないから、そんなに心配はなかつたんです。長瀬の方にも行つたり、川下りやつたりとか、猿がいる山に登つたりして、だから確かにたくさんすばらしいところがあると。だから、いろいろ考え方の転換に

あります。

さてさて、僕は埼玉に今住んでいるんですけど、埼玉は確かに知事が言つたように、いろいろ大自然はまだ残っているんです。僕は結構最近も週に一回は、日曜日あたりは結構別所沼に行つたりして、そこにはたくさん的人が釣りをやつたりして、確かに東京ではそういうように普通のみんな出入りするお金も払わないところにいろいろ魚釣りをやつて、たくさん魚釣れるところは余りないです。夜も町を歩いたりして、やっぱり夜も別所沼は本当に好きだから、沼を何周かして、また家に歩いて帰つたりもします。でも、もつと県北に行くと、県知事は小川のことを話したけれども、その隣には嵐山がありまして、嵐山もやっぱり日本の国蝶、オオムラサキの里というところがあつて、僕もそこへ行つて、やっぱり初めて実際飛んでいるオオムラサキ、そのチョウウチヨウを見て、すごくきれいだつた。ヒバカリといいうちつちやな蛇も道を通つたりして、害のない蛇ですよ。至るところにマムシ注意と書いてありましたけれども、でもマムシも別に人をふだんは襲わないから、そんなに心配はなかつたんです。長瀬の方にも行つたり、川下りやつたりとか、猿がいる山に登つたりして、だから確かにたくさんすばらしいところがあると。だから、いろいろ考え方の転換に



**ピーター・フランクル氏略歴**

一九五三年 ハンガリー生まれ。七一年、国際数学オリンピック金メダル。七八年、サーカス芸人国家試験合格。九二年、算数オリンピック設立以来、専務理事。〇三年からさいたま市在住。

ハンガリーの最高科学研究機関であるハンガリー学士院のメンバー。日本ジャグリング協会名誉理事。国際数学オリンピックへの日本チーム参加に尽力し、優秀な学生の育成に努める。

現在は人生を楽しくするコツ等をより多くの日本人に伝えたいと、講演活動に力を入れている。語学にも長けており、大学で講義ができる程度に話せる言語は十一ヵ国語。その才能を活かし、八十カ国以上を訪問している。著書、「世界青春放浪記」「僕が日本を選んだ理由」「ピーター流らくらく学習術」「本人のための英語術」「美しくて面白い日本語」など、多数。

オフィシャルホームページ  
<http://peterfrankl.com/>

よつては、やっぱり県の中でも週末も楽しく過ごせるところもいっぱい、可能性いっぱいあるんです。だから、ぜひひぜひこれから考えてほしいと思つてゐるんです。

# リフォーム委員会から

## 名刺交換会

住宅リフォーム推進委員会では十二月十四日に行なわれた第八回登録事業者講習会のあと、初めての名刺交換会を実施しました。

この名刺交換会は①情報交換、②協議会や制度への意見収集などを目的としたものです。

前半では各委員が自己紹介をし、雰囲気が和んだところで意見交換がはじまりました。リフォーム詐欺が社会問題化してからの理不尽な苦労話や、リフォーム業界の今後のあり方まで広い意見が交わされました。協議会や制度への意見としては登録者のメリットについて様々な意見があり、もっとメリットを拡大すべきという意見と、信頼を得るために地道な活動だからこそ現状で十分など幅広い考え方があることを参加者が実感しました。

制度も一年を経て議論ができるだけの実績が出来てきた証でもあり、立ち上げ期から成熟期へと成長していると感じます。今後も機会を見て継続的に名刺交換会や意見交換会を実施していくことを目指していきます。次回開催日は未定ですが、定期講習会の終了後に開催することが合理的

だらうと考えております。

## 登録審査会

ただいま登録の更新作業と新規事業者登録の業務が進んでおりますが、更新とともに残念ながら情報公開を停止させていたいた事業者が数社ありました。これらの事業者は郵送による連絡が取れなくなつたことによる企業情報公開の停止ということになります。

また、登録審査会に取り上げられた場合の消費者センター等からの苦情情報提供について同意書をいただけていない事業者の情報公開停止も検討されております。

ほかに、現在、いくつかの案件について登録審査会が召集されて議論が交わされておりますが、結論が出て運営委員会で承認されればその事業者の情報公開の停止や登録辞退の勧告などが行なわれる可能性があります。この登録審査会は制度の根幹を支える部分でもありますので、各専門機関や行政にもアドバイスをいただきながら慎重に運営をしてまいります。

## 防犯アドバイザーリング制度の普及

### \*県内各所で防犯相談会を実施\*

去る九月十七・十八日のさいたま防犯・交通安全フェア（於さいたま新都心駅コンコース）を皮切りに、十二箇所において防犯相談会を実施しました。

市民まつりや産業博などのイベント会場の中で、ノボリ旗を立ててブースを構え、パソコンを利用した簡易診断やチラシの配布などを行ない、県民に向けた防犯対策の薦めに努めました。

各会場には、延べ四十一名もの防犯アドバイザーの方々がボランティアで参加して下さつたおかげで、制度のPRをすることができました。ご支援を頂きました皆様に、誌面を借りて御礼を申し上げます。



川越産業博覧会（10月21日川越運動公園）

## 住宅金融公庫からのお知らせ

○築十年以内の中古マンションを購入する場合、物件検査を不要としました。  
(一月下旬頃から適用)

平成八年十月以降に事業承認した公庫融資付きマンションで、「耐久性基準」に適合した築十年以内のものが対象となります。対象マンションは公庫のHPで一月下旬に掲載予定です。

○中央労金フラット35の取り扱いを開始  
請負契約代金の支払時期を考慮して、のHPで一月下旬に掲載予定です。

着工時、上棟時につなぎ資金を交付する住宅ローンができました。また、フランクト35と「ろうきん・固定金利」の併用融資で100%融資も可能です。

問い合わせ先 中央労働金庫

○一二〇一八六一六九五六

(平日九時から十七時)

○フラット35と公庫財形住宅融資の併せ融資により、100%融資が可能になりました。

フラット35の長期固定金利と公庫財形住宅融資の五年固定金利により、当面の月々の返済負担を減らすことが可能になります。

■フラット35、公庫融資、ご返済に関する融資窓口

(年末年始祝日を除く、午前九時～十七時)  
○五七〇一〇八六〇一ニニ五

<http://www.flat35.com>

## 第2回 埼玉住み心地の良いまち大賞

# 熊谷の飯田さんと伊奈中学校の小林さんに大賞



大賞の飯田さん(左)と小林さん(中央)



テプコンニックでの展覧会



上田知事も熱心に見ておられた

第二回埼玉住み心地の良いまち大賞が選定され、去る十月二十一日パレスホテル大宮で表彰式が行われた。また、テプコンニック三十一階ギャラリー、埼玉県庁中廊下、住宅月間シンポジウム会場で、入賞作品が展示され多くの人々の注目を集めた。

### 審査委員長講評

「埼玉住み心地の良いまち大賞」は県内のまちをより良くする活動の一環として考えられている活動で、まちづくりに関心が集まっている今日、時にかなった企画だと思います。本来まちづくりというのはあたえられ、おしつけられるものではありません。そこに住む住民が自分たちのまちを「こうしたい」という発想がなければ成立しません。そのためには何をしたらよいのか、どうすべきなのか考えていかなければならぬのです。

この賞は大人の発想だけではなく小・

中学生の視点も考慮しているといろにユニークなポイントがあり、まちづくりについて自分たちの足もとを見る良いきっかけになるのではないでしょう。

今回は百四十四点の応募があり、この運動も少しずつ定着してきていくというところでしょう。特に小・中学生の応募の増加は今後のこの大賞の意義から考えても期待がもてそうです。

このほか、「審査委員長賞」二点が選ばれました。

小学校高学年の部、「グリーンロード」。アスファルトの路の両側に力強く林立する樹木。緑の豊かさ、大切さを率直に訴えていました。

小学校低学年の部。「団地の大公園」。日頃、さまざまな遊びで楽しく過ごす公園は、こどもにとって大切でかけがえのない場所でしょう。改めてこうした空間の重要さを私たち大人は見直さなければなりません。

大人の部の大賞は「特急「かめ号」の散歩道　かめのみち公園」。東武妻沼線の廃線に伴つたあたりを哀惜を込めてテーマにしたもので、スローライフが見直されてきている今日、標題の「かめ」のように、田園風景をバックに緑につまれながら一度この応募の案内図に沿つてゆっくり歩いてみたいと思われる場所でした。プレゼンテーションも巧みで、審査員、満場一致でした。

審査委員長  
埼玉県立近代美術館  
学芸主幹　伊豆井秀一

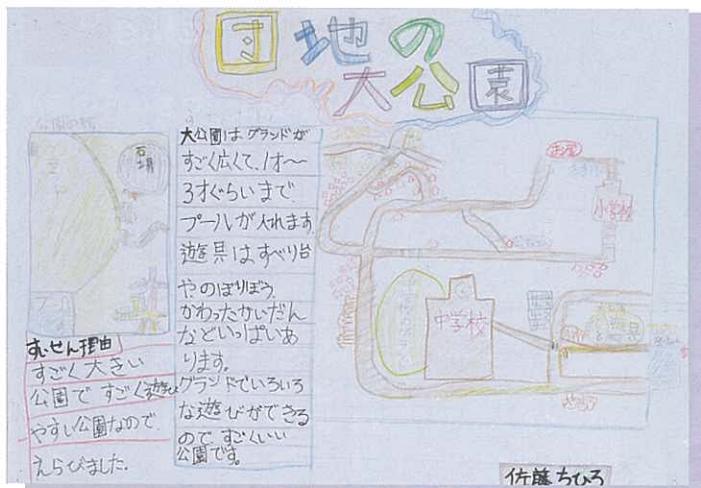
はっしんち」。伊奈町のみどころを大小さまざま写真で構成したものですが、お寺や林など、豊かな自然を背景に、思い入れたっぷりと詳しく述べしてくれました。

はつしんち」。伊奈町のみどころを大小さまざま写真で構成したものですが、お寺や林など、豊かな自然を背景に、思

**大賞(大人の部)**  
**特急「かめ号」の散歩道**  
**かめのみち公園**  
**熊谷市 飯田明彦さん**



**大賞(こどもの部)**  
**伊奈町はSmileはっしんち**  
伊奈中学校 小林冬美さん



審査委員長賞 団地の大公園 原市小学校 佐藤千優さん



審査委員長賞 グリーンロード 蒲生南小学校 斎藤雪菜さん

埼玉県住まいづくり協議会は設立10周年を記念して

# 「シンボルマーク・ロゴタイプのデザイン」募集

最優秀作品には10万円の商品券

埼玉県住まいづくり協議会  
シンボルマーク及びロゴタイプ作品コンペティション要綱

埼玉県住まいづくり協議会は、豊かで誰もが住みたくなる埼玉県の郷土づくりを目指し、県内住宅産業全体が参加できる仕組みをつくり、民官とのパートナーシップのもと、研究・研修・事業・広報活動や、講習会・シンポジウム・相談会の開催など、幅広い活動を行なっています。今年で設立十周年を迎え、記念事業の一環として作品募集を行ないます。

埼玉県の豊かなまちづくりと、県内住宅産業の健全な発展への姿勢や意気込みなどを表現する、親しみやすいシンボルマーク及びロゴタイプを広く募集します。

一、募集期間 平成十八年十二月一日～平成十九年二月二十八日

二、応募規定 ●未使用、未発表のオリジナル作品であること

●A4サイズ 白色紙使用(シンボルマークとロゴタイプはセットとする)

●彩色自由(背景なし、モノクロでの使用の場合あり)

●手描きやCGなど作成方法は自由(手描き以外の作品が入選した場合は、後日データの提出を求める)

●データで提出する場合は画像データ(jpeg形式、2MB程度まで)をメールに添付して応募。メールの件名を「シンボルマーク及びロゴタイプ作品応募」とする

●紙で提出する場合は作品の裏面に「メールで提出する場合は作成者の郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号及び、デザインの趣旨を記入(応募者の個人情報は本公司事業の用途以外には一切使用しない)

三、応募資格 不問

四、応募点数

五、賞 最優秀賞：一点 優秀賞：五点

六、提出先

〒330-8516 埼玉県さいたま市浦和区仲町三-11-10  
埼玉県住宅供給公社内

埼玉県住まいづくり協議会 ハンボルマーク公募担当  
協議会広報部会で審査する

平成十九年四月上旬 入選者に通知及び、当協議会  
ホームページ(<http://www.sahn.jp>)に掲載

九、諸権利 ●応募作品の著作権は当協議会に帰属するものとする  
●使用の際に修正する場合あり

●応募者への原本は返却しない

\*右記内容は住まいづくり協議会HPへ(<http://www.sahn.jp>)に掲載しています。

## 住まいの防犯アドバイザー 養成講習会を開催

埼玉県住まいづくり協議会とは?

埼玉県住まいづくり協議会では、急増する県内の住宅への侵入盗被害に対し、防犯性の高い住宅を普及するため、平成十六年度から埼玉県と共に「住まいの防犯アドバイザー」を養成しています。

今年度は受講資格に「マンション管理士」と「建築設備士」を加え、左記のとおり開催します。

一、日時 ①平成十九年一月三十一日(水)

②平成十九年二月一日(木)

\*時間はともに十時～十七時

\*講習は一日で修了。どちら

かの日程を選んで受講。

二、場所 埼玉県県民健康センター  
(さいたま市浦和区仲町三-11-1)

一階 会議室A・B

三、対象 建築士、宅地建物取引主任者、  
防犯設備士、マンション管理士、建築設備士

\*いずれも県内在住または在勤者に限る

「住宅防犯診断とアドバイス」

「県内の犯罪状況」など

四、内容 各回とも100名

五、費用 平成十八年十二月一日～  
平成十九年一月十九日(申込順)

六、定員 平成十九年一月十九日(申込順)

七、申込 平成十八年十二月一日～  
平成十九年一月十九日(申込順)

八、主催 埼玉県  
埼玉県住まいづくり協議会

九、後援 埼玉県警察本部

電話：〇四一八三〇一〇〇三三

## 入会金無料

設立十周年の今年度は

## 会員募集中

埼玉県住まいづくり協議会では、会員を募集しております。お取引先やお知り合いの方で、埼玉の住まいづくりに興味を抱いている方にお勧めください。お問い合わせは事務局までお願いします。

埼玉県の住宅供給を取り巻くさまざまなもので、県民が安心して暮らせる街や、住まいづくりを目指して民間の各種住宅関連企業と行政とが、「住まい」に関する情報を共有しながらいろいろな事業に共同で取り組めるネットワークを構築しました。

また、読者の皆様からの協議会  
および会報に対する意見を  
募集しております。